

【参加者からの感想】

○総合学術研究科 博士前期課程2年次 Sさん

私は近年の物に溢れている時代に生まれ、自然に対する感覚、体験が乏しいのかと思いましたが、今までの人生を振り返ると自然に触れ合った時間は思っていた以上に存在していることに気がつきました。自然との触れ合い、体験を学びとることは人それぞれ違うと思うので自身の考えを大事にしていきたいと考えている。新しい発見は常に探し求める嗅覚が重要だと思う、自信の考えを大事にしていきたい。

○総合学術研究科 博士前期課程2年次 Yさん

今回の野依セミナーで印象に残ったところは、研究に活かされたのは、テーマとなった新聞記事での野依先生の経験やハーバード大学でポストドクをしていた頃のお話で、人に形式的なことを教えてもらうだけでなく、自分の中で感覚的に学ぶことが大切であると感じました。

今回、貴重なお話を聞くことができ良かったです。今回の野依セミナーでお聞きしたことを大切にしていって、今後社会人としても活躍していきたいです。

○都市情報学研究科 博士後期課程3年次 Mさん

今回のセミナーでは、野依先生とのフランクなディスカッションを通し、非常に有益な知見を得ることができたと感じている。特に、野依先生と私達大学院生との経験の差から、いかに私たちの感性が鈍化しているのか再認識させられたことが、とても印象深く残っている。今回頂戴した言葉を糧に、より感性を磨き、分野横断的な課題解決能力を持ち合わせられる研究者となれるよう、精進していきたい。今後もこのような場が継続されると良いと感じた。また機会があれば、参加させていただきたい。

○農学研究科 修士課程1年次 Iさん

一番印象に残っているのは、同じ県の出身でも都心部と農村部では自然とのかかわり方(自然からどれだけ学んだか、”何か自然から学んだか”という感じる力)が大きく違うということです。私自身も、モノが多い都心部の出身で、日常で雪下ろしや、畑で何かを作って自給自足の生活をしなければならないということはなかったので、「暗黙知」を培う機会が少なかったと思います。しかし、私が所属している研究室では、機械任せの作業の割合は他の人と比べて少なく、研究中に自然から学ぶことはよりたくさんあるため、「暗黙知」を多く培うことができる機会が多いことを実感しました。一方で、ただでさえ自然から学ぶ機会が少ない私たちが、どのようにそれを次世代へ伝えていくのかということが課題であるとも痛感しました。

○理工学研究科 博士後期課程2年次 Yさん

今回、野依先生とお話しできてとても良い機会でした。話しやすい感じで良かったです。時間が経つのが早かったです。テーマが壮大でしたが、他の学科の方の考え方が聞けて良かったです。いろいろな経験談が聞けて面白かったです。また機会があれば、今度は科学や研究に関してもっとお話ししたいです。今後もこのような先生とお話しする機会や他の研究生とお話しする機会を設けてもらえると新鮮で、考える機会になります。

○理工学研究科 博士後期課程 2年次 Tさん

野依先生の「何かを創造するときは、暗黙知と形式知が一体となっていることが多い」といった考えが非常に興味深いものであると思いました。これからの研究活動において、形式知はもちろん、暗黙知をより多く吸収できるように日頃の研究活動や生活の中で意識していく必要性を感じました。また、最後に野依先生から「良い研究者になるためには、良い研究をすることが大切である」というお言葉を頂きましたが、良い研究とはどういったものかを常に考えながら自身の研究活動に精進していきたいと思いました。

○法学研究科 博士後期課程 3年次 Sさん

野依先生、森先生、鈴木先生の進行により、高名な野依先生が高等教育の意味について本人の持っている力を伸ばし生きる力を与える。先生が自分の趣味ではなく若い人に時代にあった本当の意味の生きていく力を与えることであると明言された。実務者として生きてきて研究者は無理だと思っていた私に若い人を教え育てること機会があれば教育者もありかなと思わせていただきたい機会になりました。

名城大学は文理併せ持つ総合大学です。大学院生を専門分野関係なく15名くらいずつにわけて、タワー75の最上階でオフレコの本音トーク（高名な先生だけでなくいろんな分野のプロフェッショナルとお茶会セミナー）があるといいのかなと感じました。まさしく本音です、ありがとうございました。